

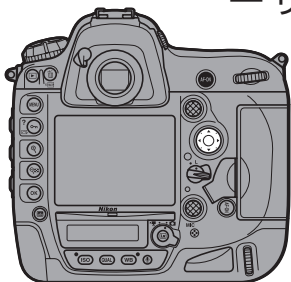
Nikon



D4s Professional

推奨設定ガイド

— サッカ—編 —




目次

サッカー競技を撮影する際のオートフォーカスに関する推奨設定 5


基本設定6

- AF モードは AF-C に！7
- AF エリアモードはダイナミック AF・9 点に！8

カスタムメニューを使った AF 関連の詳細設定9

- a1：AF-C モード時の優先9
- a3：AF ロックオン9
- a4：半押し AF レンズ駆動10
- a11：AF エリアモードの限定11
- a12：AF モードの制限 12


その他の便利な機能18

- a5：フォーカスポイント表示18
- a7：AF 点数切り換え20
- a10：縦 / 横位置フォーカス切換21
- f19：レンズのフォーカス作動ボタン機能 24

AF 微調節設定ガイド 31

AF 微調節機能について32

- 用意するもの34

AF 微調節前の準備	35
● AF 微調節を行うときの周辺の明るさについて.....	35
● 撮影距離について.....	35
● ターゲットの撮影.....	36
AF 微調節の方法	37
● AF 微調節後のピント確認.....	39
● その他 - セットアップメニュー [AF 微調節] で できること.....	40
サッカー競技を撮影する際の ホワイトバランスに関する推奨設定	43
基本設定	44
● ホワイトバランスは AUTO (オート) に！	44
スポットホワイトバランス  D4S の新機能	45
● スポットホワイトバランスでプリセット マニュアルデータを取得する.....	45
D4S で AF-S NIKKOR 400mm f/2.8E FL ED VR を使う	51
SPORT モードで手ブレを補正する	52
● SPORT モードの特長.....	53
● SPORT モードと NOMAL モードの使い分け.....	54
カメラの縦位置と横位置をスムーズに回転させる	55

サッカー競技を 撮影する際の オートフォーカスに 関する推奨設定

基本設定

サッカー競技を撮影する際のオートフォーカスは、次の基本設定をおすすめします。

AF モード		AF-C
AF エリアモード		ダイナミック AF・9点
カスタムメニュー	a1: AF-C モード時の優先	[リリース]
	a3: AF ロックオン	[2]
	a5: フォーカスポイント表示 ダイナミック AF モード時の表示	[する]

以上の設定を行うことで、被写体の手前を別の被写体が横切るようなシーンや、遠くと近くで被写体を変更しなければならないシーンなど、幅広いケースに対応可能なサッカー競技を撮影できます。

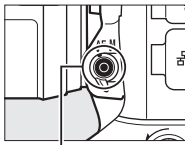


● AF モードは AF-C に！

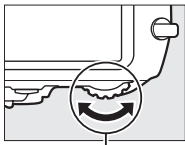
AF-ON ボタンを押している間、またはシャッターボタンを半押ししている間は常にピントを合わせ続けるモードです。被写体が動いている場合には予測駆動フォーカスに切り替わり、被写体の動きに合わせてピントを追いつけます。

AF モードの変更方法

AF モードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。



AF モードボタン



メインコマンドダイヤル

- AF モードは、上面表示パネルとファインダー内下表示に表示されます。



上面表示パネル



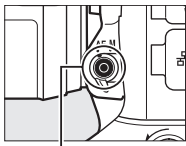
ファインダー内下表示

● AFエリアモードはダイナミックAF・9点に！

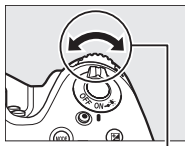
ダイナミックAF・9点に設定すると、撮影者が選んだ1つのフォーカスポイントから被写体が一時的に外れても、周辺の8点のフォーカスポイントからのピント情報を利用してピントを合わせます。構図を決めて撮影するときや、被写体の動く方向が予測でき、フォーカスポイントで被写体を捉えやすい撮影に適しています。

AF エリアモードの変更方法

AF モードボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回します。

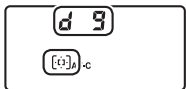


AF モードボタン



サブコマンドダイヤル

- AF エリアモードは、上面表示パネル、ファインダー内下表示に表示されます。



上面表示パネル



ファインダー内下表示

カスタムメニューを使った AF 関連の詳細設定

● a1 : AF-C モード時の優先

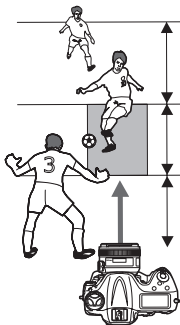
[リリース] を選択します。

ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。

● a3 : AF ロックオン

[2] を選択します。

AF ロックオンは、ピントを合わせている被写体を一瞬見失っても、一定時間ピントの位置を維持する機能です (AF モードを [AF-C] に設定している場合のみ)。被写体とカメラの間を障害物が横切るような撮影など、意図に反して障害物にピント合わせを行うことを防止します。追従するピント合わせを開始するまでの時間が長い順に [5 (強い)]、[4]、[3]、[2]、[1 (弱め)] の5段階になります。サッカー競技の場合は [2] がおすすめです。



被写体から離れた物体
には一定時間ピントを
合わせません

被写体のそばの物体に
は追従してピント合わ
せを行います

被写体から離れた物体
には一定時間ピントを
合わせません

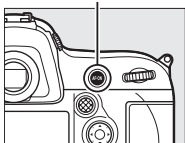
カスタムメニューを使った AF 関連の詳細設定

- AF ロックオンは AF 作動中に有効です。撮影中の被写体から距離の離れた別の被写体に瞬時に切り替えて撮影したい場合には、再度 AF をし直すことをおすすめします。
- 頻繁に撮影対象の被写体を切り替える撮影を行う場合は、AF ロックオンを [1 (弱め)] または [しない] に設定してください。

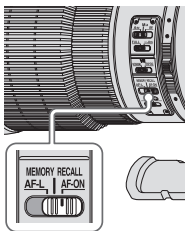
● a4 : 半押し AF レンズ駆動

AF-ON ボタンを使ってピントを合わせる場合、カスタムメニュー a4 [半押し AF レンズ駆動] を [しない] に設定すると、リリースとピント合わせをそれぞれ独立して行うことができます。

AF-ON ボタン

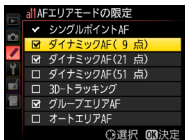


- ピントを固定してシャッターをきりたいときや、被写体の手前に障害物が入り込んできた場合などに、AF-ON ボタンを離すことでオートフォーカスの駆動を止めることができます。
- フォーカス作動設定スイッチのある超望遠レンズを使用する場合にスイッチを [AF-ON] に合わせると、上記の AF-ON ボタンと同様の使い方ができます。



● a11 : AF エリアモードの限定

AF モードボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回した場合に選べる AF エリアモードを限定できます。

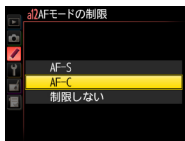


サッカー競技を撮影する場合は、[シングルポイント AF]、[ダイナミック AF (9点)]、[ダイナミック AF (21点)]、[グループエリア AF] に限定することをおすすめします。

[ダイナミック AF (9点・21点)] は、選択したフォーカスポイントでオートフォーカスができない場合のみ周囲のフォーカス可能なエリアを補完的に使用する仕組みです。[グループエリア AF] は常に5点のフォーカスポイントを使って、面で被写体を捉えることができます。狙った被写体が小さく、高速で動くような捉えにくい場合でも、目的の被写体を的確に捉え、精度よくピントを合わせます。

● a12 : AF モードの制限 D4S の新機能

AF モードボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回した場合に選べる AF モードを制限できます。





サッカー競技を撮影する場合は、**[AF-C]** の選択をおすすめします。

ファインダー撮影時の AF モードは **[AF-C]** に固定され、AF モードボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回しても AF モードは変わりません。

開放 F 値の違いによるフォーカスポイント使用制限

レンズの開放 F 値によって、オートフォーカス可能なフォーカスポイントが以下のように変更されます（グループエリア AF の場合も★のフォーカスポイントを除く次の表示エリアに対応しています）。

	<p>開放 F 値 ≤ F 5.6 51 点（クロス中央 15 点＋ ライン左右 18 点ずつ）対応</p>
	<p>F 5.6 < 開放 F 値 < F 8 15 点（クロス中央 9 点＋ 左右 3 点ずつ）対応 例）開放 F 値 4 のレンズに、 テレコンバーター TC-17E II を 装着した場合</p>
	<p>開放 F 値 = F 8 11 点（クロス中央 1 点＋ ライン上下 1 点ずつ＋ 左右 4 点ずつ）対応 中央から斜めに位置する 4 点は、 ダイナミック AF のサポート 例）開放 F 値 4 のレンズに テレコンバーター TC-20E III を 装着した場合</p>

- ：クロスセンサー ▲：ラインセンサー
- ★：ダイナミック AF エリアとしてのみ活用

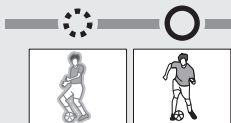
カスタムメニューを使った AF 関連の詳細設定

AF-C モード時の優先設定について

カスタムメニュー a1 [AF-C モード時の優先] では、ピントとレリーズのどちらを優先するかを設定できます。

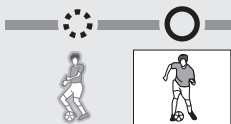
☉ レリーズ

ピント状態に関係なく、撮影優先でシャッターをきることができます。連続撮影する場合にも撮影速度を維持します。



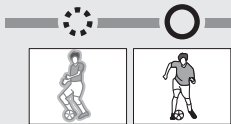
☉☉ フォーカス/レリーズ

1 コマ目は撮影タイミングよりピントを優先します。連続撮影時には 2 コマ目以降から撮影を優先し、連続撮影速度を維持します。



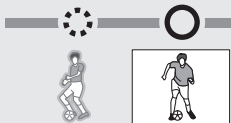
☉☉☉ レリーズ/フォーカス




1 コマ目はピント状態に関係なく、撮影優先でシャッターをきることができます。2 コマ目以降はピント合わせを優先するため、ピントが合いにくい場合は撮影速度が低下することがあります。

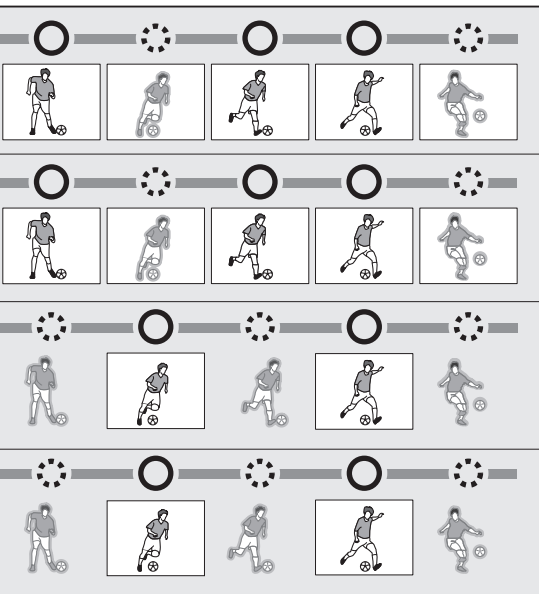


☉☉☉☉ フォーカス

ピントの状態を優先し、ピントが合っていない場合にはピントが合うまでシャッターがきれません。




-  ピントが合っていない状態
-  ピントが合っている状態
-  シャッターがきられた状態



カスタムメニューを使った AF 関連の詳細設定

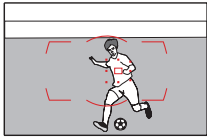
AF エリアモードについて

各 AF エリアモードの画面表示と機能の詳細は次の通りです。

AF エリアモード	上面表示パネル	ファインダー内下表示	ファインダー内表示 (設定時)	ファインダー内表示 (撮影時)
シングルポイント AF	S	S		
ダイナミック AF・9点	d 9	d 9		
ダイナミック AF・21点	d21	d21		
ダイナミック AF・51点	d51	d51		
3D-トラッキング	3d	3d		
 D4Sの新機能 グループエリア AF	GrP	GrP		
オートエリア AF	Ruto	Ruto		

*カスタムメニューの a5 [フォーカスポイント表示] で [ダイナミック AF モード時の表示] を [する] にした場合

内)	説明
	フォーカスポイントを自分で選べます。選んだフォーカスポイントだけを使ってピント合わせをします。被写体を確実に捕捉し続けられる場合に有効です。
	AF 開始時、撮影者が選んだフォーカスポイントを優先して被写体を捕捉します。その後、選んだフォーカスポイントから一時的に被写体が外れた場合にも、周辺のピント情報を利用してピント合わせを行う設定です。被写体のコントラストが低く、選んだフォーカスポイントでピントが合いにくい場合や、被写体の動きが激しく、フォーカスポイントで捕捉しづらい場合に有効です。
	<ul style="list-style-type: none">被写体の占める面積が大きい場合や、被写体の動きが速く複雑な場合は、ダイナミック点数を増やすことが有効です。周辺部のフォーカスポイントを選ぶ場合は、点数を一段増やすことをおすすめします。
	被写体の色情報を認識し、シャッターボタンを半押ししている間は 1 度ピントを合わせた被写体を追いかけ、ピントを合わせ続けます。
	撮影者が選んだ 5 点のフォーカスポイント (グループ) のすべてを使ってピント合わせをします。広い範囲で被写体を捉えるため、誤って背景にピントが合ってしまうことが起こりにくくなります。1 つのフォーカスポイントでは捉えにくい被写体を撮影する場合に適しています。
	主要被写体と思われる場所をカメラが自動で判別し、ピントを合わせます。



その他の便利な機能

● a5：フォーカスポイント表示

ファインダー内のフォーカスポイントの表示に関する設定ができます。

マニュアルフォーカス時の表示

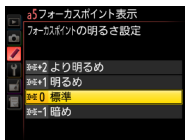
[**する**] に設定すると、マニュアルフォーカスでの撮影時にフォーカスポイントが常に点灯します。[**しない**] に設定すると、フォーカスポイントを移動したときのみ一瞬点灯します。

連写時の表示

[**する**] に設定すると、**C_H**または**C_L**での連続撮影時にフォーカスポイントが点灯します。

フォーカスポイントの明るさ設定

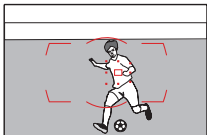
ファインダー内のフォーカスポイントの明るさを設定できます。



ダイナミック AF モード時の表示


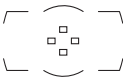


[する] に設定すると、ダイナミック AF モード時に自分で選んだフォーカスポイントと周辺のフォーカスポイントを同時に表示します。

- [する] に設定すると、3D-トラッキングの場合、フォーカスポイントの中央に点が表示されます (□)。



グループエリア AF モード時の表示



グループエリア AF モード時の、ファインダー内のフォーカスポイントの見え方を選べます。

	フォーカスポイントを四角で表示します。	
	フォーカスポイントを点で表示します。	

フォーカスポイントを (□) で表示したときに被写体が見えにくい場合は、(●) の表示に切り換えてください。

● a7 : AF 点数切り換え

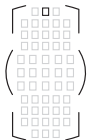
手動で選べるフォーカスポイントの数を設定できます。

AF51 51点	51点全てのフォーカスポイントを選べます。	
AF11 11点	11点のフォーカスポイントから選べます。フォーカスポイントの位置をすばやく動かしたいときに便利です。	

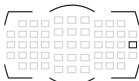
● a10：縦 / 横位置フォーカス切換

カメラを正位置（横位置）にしたときと、時計回りの縦位置と反時計回りの縦位置にしたときで個別にフォーカスポイントと AF エリアモードを設定できます。

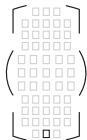
- ・ [しない] に設定した場合、横位置と縦位置で同じフォーカスポイントおよび AF エリアモードを使います。



縦位置反時計回りに 90° 回転



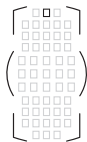
横位置



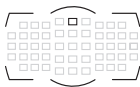
縦位置時計回りに 90° 回転

その他の便利な機能

- ・ [フォーカスポイント] に設定すると、横位置と時計回りの縦位置、反時計回りの縦位置で個別にフォーカスポイントを設定できます。[フォーカスポイントと AF エリアモード] に設定した場合、フォーカスポイントに加えて AF エリアモードも個別に設定できます。



縦位置反時計回りに 90° 回転



横位置




縦位置時計回りに 90° 回転

フォーカスポイント / AF エリアモードの設定方法

- ・ カスタムメニューの a10 [縦 / 横位置フォーカス切換] で [フォーカスポイント] に設定した後、横位置、時計回りの縦位置、反時計回りの縦位置でフォーカスポイントを移動すると、その位置が自動的に保持されます。一度 [しない] に設定すると、フォーカスポイントはカメラの位置に関係なく中央にリセットされます。
- ・ カスタムメニューの a10 [縦 / 横位置フォーカス切換] で [フォーカスポイントと AF エリアモード] に設定した後、横位置、時計回りの縦位置、反時計回りの縦位置でフォーカスポイントを移動したり AF エリアモードを設定したりすると、そのフォーカスポイントの位置または AF エリアモードが自動的に保持されます。一度 [しない] に設定すると、フォーカスポイントはカメラの位置に関係なく中央にリセットされ、AF エリアは横位置で設定した AF エリアモードになります。


フォーカスポイントと AF エリアモードの確認

- ・ 液晶モニターでの確認 : 横位置または縦位置にした状態で  ボタンを押すと、フォーカスポイントと AF エリアモードを確認できます。
- ・ 上面表示パネルでの確認 : 横位置または縦位置にした状態で AF エリアモードを確認できます。

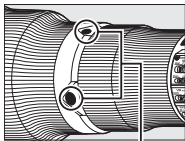
● f19：レンズのフォーカス作動ボタン機能

D4S の新機能

フォーカス作動設定スイッチがあるレンズを装着し、スイッチが

AF-L () に設定されている場

合に、レンズのフォーカス作動ボタンを押したときの機能を設定できます。例えば、フォーカス動作ボタンに [AF エリアモード] を割り当てることで、フォーカス作動ボタンを押している間は設定した AF エリアモードに変更できるため、被写体の動きが激しいサッカー競技の撮影に対応できます。






フォーカス作動ボタン

フォーカス動作設定スイッチのあるレンズ

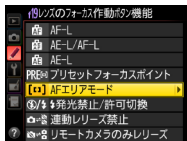
- AF-S NIKKOR 800mm f/5.6E FL ED VR
- AF-S NIKKOR 600mm f/4G ED VR
- AF-S NIKKOR 500mm f/4G ED VR
- AF-S NIKKOR 400mm f/2.8E FL ED VR
- AF-S NIKKOR 400mm f/2.8G ED VR
- AF-S NIKKOR 300mm f/2.8G ED VR II
- AF-S NIKKOR 200mm f/2G ED VR II
- AF-S NIKKOR 200-400mm f/4G ED VR II

レンズのフォーカス作動ボタンに AF エリアモードを割り当てる

カスタムメニューの f19 [レンズのフォーカス動作ボタン機能] で [AF エリアモード] を選んでマルチセレクターの ▶ を押すと、AF エリアモードを選べます ([3D-トラッキング] を除く)。フォーカス動作ボタン押し時の動作に次のような AF エリアモードを割り当





使用例	
低倍率で遠くのある 1人の選手にピンポイント でピントをあわせたい	
高倍率で選手の目に ピンポイントでピント を合わせたい	
選手同士の競り合いで どちらかの選手に必ず ピントを合わせたい	



てておくと、変化の激しいサッカー競技で、さまざまなシーンに応じた撮影が可能になり便利です。



フォーカス動作ボタン 押し時の AF エリアモード	通常撮影時の AF エリアモード
シングルポイント AF	ダイナミック AF・9点/ グループエリア AF
シングルポイント AF/ ダイナミック AF・9点	グループエリア AF

レンズのフォーカス作動ボタンに 割り当てられるその他の機能

 AF-L	フォーカス作動ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
 AE-L/AF-L	フォーカス作動ボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
 AE-L	フォーカス作動ボタンを押している間、AEロックを行います。
PRE ^[Fn] プリセット フォーカス ポイント	フォーカス作動ボタンを押している間、あらかじめ設定した位置のフォーカスポイント（プリセットフォーカスポイント）が選ばれます。フォーカス作動ボタンを放すと、元のフォーカスポイント位置に戻ります。 <ul style="list-style-type: none">プリセットフォーカスポイントを設定するには、設定したい位置にフォーカスポイントを移動して、フォーカスポイントが点滅するまで AF モードボタンを押しながら中央ボタンを長押しします。
 発光禁止 / 許可切換	フラッシュモードが発光禁止以外の場合、フォーカス作動ボタンを押している間、フラッシュは発光禁止になります。フラッシュモードが発光禁止の場合は、フォーカス作動ボタンを押している間、先幕シンクロモードで撮影できます。

 連動レリーズ 禁止	<p>ワイヤレストランスミッターやワイヤレスリモートコントローラーを接続して連動レリーズモードで撮影する場合、フォーカス作動ボタンを押している間、マスターカメラのみ撮影を行い、リモートカメラでは撮影を行いません。</p>
 リモート カメラのみ レリーズ	<p>ワイヤレストランスミッターやワイヤレスリモートコントローラーを接続して連動レリーズモードで撮影する場合、フォーカス作動ボタンを押している間、リモートカメラでのみ撮影を行います。</p> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>カスタムメニューの f3 [Fn ボタンの機能] または f4 [プレビューボタンの機能] で [リモートカメラのみレリーズ] に設定すると、それぞれ Fn ボタンまたはプレビューボタンに同じ機能を割り当てることができます。</p> </div>

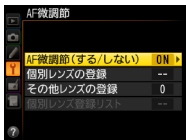
AF 微調節 設定ガイド

AF 微調節機能について

装着したレンズごとに最適なピント合わせを行いたいときに、カメラのセットアップメニューから **[AF 微調節]** を行うことにより自分で AF（オートフォーカス）のピント位置を調節できます。通常は AF 微調節を行う必要はありません。必要な場合のみ調節を行ってください。また、**[AF 微調節]** を行うことで、敢えて AF の位置をズラして撮影するというようにピントの合わせ方を自分の好みに調整することも可能です。ピントの状態を確認し、調節が必要な場合は **[個別レンズの登録]** または **[その他レンズの登録]** で微調節値を設定してください。

- ライブビュー撮影時に AF でピント合わせを行うときは、**[AF 微調節]** で登録した微調節値は適用されません。

カメラのセットアップメニュー [AF 微調節] で設定できる項目は次の通りです。



AF 微調節 (する / しない)	する	レンズごとに登録した AF 微調節の設定が有効になります。
	しない	AF 微調節を行いません。
個別レンズの登録		装着している CPU レンズの微調節値を登録できます。
その他レンズの登録		[個別レンズの登録] で登録していない CPU レンズを装着したときに、一律で微調節する値を設定します。
個別レンズ登録リスト		[個別レンズの登録] で登録したレンズを一覧表示します。[個別レンズの登録] だけでは同じ種類のレンズを区別できないため、同じ種類のレンズを複数所有しているようなときに、登録したレンズのシリアル番号末尾 2 桁などを識別番号に設定しておくこと、どのレンズで登録したかを識別できます。

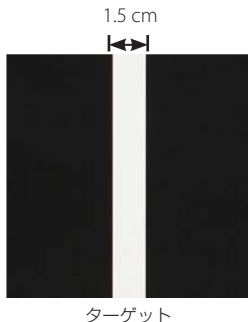
● 用意するもの

カメラ、レンズ

AF 微調節を行うカメラ (D4S) とレンズを用意します。

AF 微調節用のターゲット

AF 微調節では、白黒がはっきりとしていて模様などがあまり細かい平面状のターゲットを使用してください。ターゲットの例として、黒地に白線というシンプルな平面状のものを使用します。ターゲットの白線の幅は 1.5cm 程度が適切です。



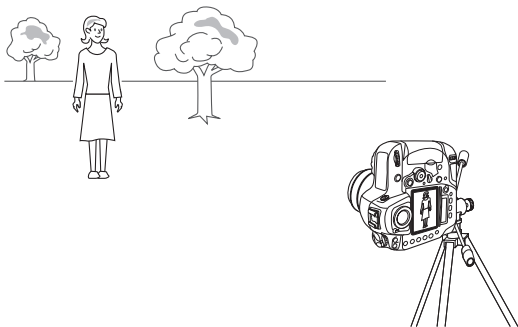
AF 微調節前の準備

● AF 微調節を行うときの周辺の明るさについて

AF 微調節は、室内などの暗い場所ではなく、昼間の屋外など明るい場所で行ってください。実際に撮影する環境が十分な明るさであれば、同じ条件の光源下で行うこともおすすめです。

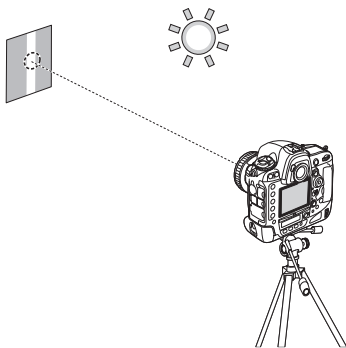
● 撮影距離について

AF 微調節を行うときの撮影距離は、カメラを縦位置にして人物全体が画面いっぱいに入るくらいを目安にしてください。ターゲットはカメラに対して平行に配置します。



● ターゲットの撮影

画面にターゲットが入るようにし、オートフォーカスでターゲットにピントを合わせて撮影します。AF エリアモードはシングルポイント AF モードを使用してください。フォーカスポイントが一番よく使用するもの、または中央を使用してください。



注意点のまとめ

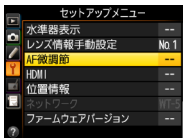
- ・ 明るい場所で行う
- ・ カメラを縦位置にし、人物全体が画面いっぱいに入るくらい距離をとる
- ・ 撮影ターゲットはカメラに対して平行に配置する

AF 微調節の方法

カメラでレンズのピントの調節値を設定します。

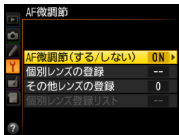
- ・ AF 微調節を行うと、レンズの無限遠側または至近側でピントが合わなくなる場合があります。
- ・ AF 微調節は、位相差 AF（ファインダー内の AF）のみ有効となります。

1 セットアップメニューから [AF 微調節] を選択する



2 [AF 微調節 (する / しない)] を選択して ▶ を押す

- ・ [AF 微調節] 画面では、現在の AF 微調節の設定が有効かどうかを確認できます。
- ・ [ON] : AF 微調節は有効です。
- ・ [OFF] : AF 微調節は無効です。



3 [する] を選択して Ⓞ ボタン を押す

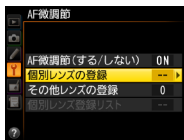
- ・ レンズごとに登録する AF 微調節の設定が有効になり、[AF 微調節] 画面に戻ります。
- ・ 登録した調節値を使用しない場合は [しない] を選択します。



4

【個別レンズの登録】を選択して▶を押す

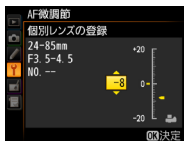
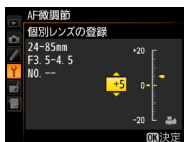
- カメラに装着されているレンズのAF微調節の値を登録できます。レンズが複数本ある場合は、登録したいレンズをカメラに装着してから、再度【個別レンズの登録】から登録を行います。
- レンズ名称が同じレンズを複数登録することはできません。




5

ピントの微調節値を登録する

- プラス方向に調節すると前ピンを修正します。
- マイナス方向に調節すると後ピンを修正します。



-
- ・ レンズ名称が同じレンズを複数登録することはできませんが、テレコンバーターを装着した場合は違うレンズとして個別登録できます。
 - ・ [個別レンズの登録] で登録したレンズを削除するには、[個別レンズ登録リスト] 画面の一覧表示から削除したいレンズを選んで、 ボタンを押します。

● AF 微調節後のピント確認

登録した調節値が適切かどうかを確認するため、実際に撮影を行います。カメラの液晶モニターの表示だけではわかりにくい場合は、撮影した画像をパソコンに転送して確認することをおすすめします。

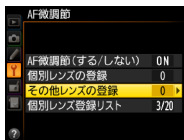
ピント合わせでは、何度かピントを合わせなおして繰り返し撮影し、傾向を確認することで、自分の思い通りの調節値により近づけることができます。その際、1枚撮影するごとに一旦ピントを大きく外して、あらためてAFでピントを合わせるようにします。

- ・ ライブビュー撮影時にAFでピント合わせを行うときは、[AF微調節] で登録した微調節値は適用されません。

● その他 - セットアップメニュー [AF 微調節] でできること

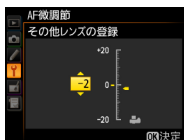
[その他レンズの登録]

[個別レンズの登録] で登録していない CPU レンズを使用するときの AF 微調節の値を一律で設定します。



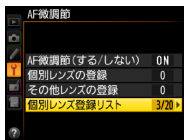
AF 微調節する値を設定します。

- ・ プラス方向に設定すると前ピンを修正し、マイナス方向に設定すると後ピンを修正します。



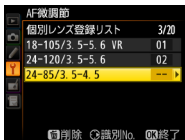
[個別レンズの登録リスト]

[個別レンズの登録] で登録されたレンズを一覧で確認することができます。



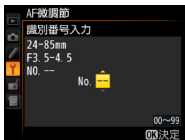
〔個別レンズの登録〕で登録されたレンズの焦点距離と開放 F 値、識別番号が一覧で表示されます。

- ・ リストからレンズを選んで ▶ を押すと、〔識別番号入力〕画面が表示されます。
- ・ 削除ボタンを押すと、登録したレンズを削除することができます。



〔個別レンズの登録〕をした情報に〔識別番号入力〕で番号の入力ができます。登録したレンズのシリアル番号末尾 2 桁などを設定しておく、下記のようなときに便利です。

- ・ [Ai AF NIKKOR 50mm f/1.8D] と [AF-S NIKKOR 50mm f/1.8G] のような、表示は同じでも違う種類のレンズを登録したいとき。
- ・ レンズ名称が同じレンズを複数本所有している場合に、どのレンズを登録したかを判別するとき。



サッカー競技を 撮影する際の ホワイトバランスに 関する推奨設定

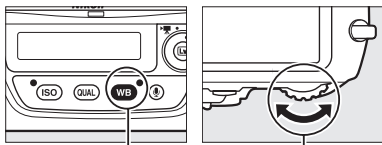
基本設定

● ホワイトバランスは AUTO（オート）に！

初期設定の AUTO（オート）でほとんどの光源に対応できます。ホワイトバランスを AUTO（オート）に設定した場合、撮影メニューで [AUTO1 標準] と [AUTO2 電球色を残す] から選べます。

ホワイトバランスの設定方法

WB ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。



WB ボタン メインコマンドダイヤル

- ・ ホワイトバランスは、背面表示パネルに表示されます。



背面表示パネル

AUTO（オート）で十分な効果を得るには

AUTO（オート）で十分な効果を得るには、G、EまたはDタイプレンズをお使いになることをおすすめします。また、別売のスピードライトの使用時は、フラッシュ発光時の条件に応じて適したホワイトバランスに調整されます。

スポットホワイトバランスは、競技場の照明条件により、**AUTO**（オート）で望ましいホワイトバランスが得られない場合に便利です。スポットホワイトバランスを使うと被写体の一部に白、またはグレーの部分があれば、望遠レンズ装着時にも、レンズを交換せずにそのままプリセットマニュアルデータを取得できます。あらかじめプリセットマニュアル取得用の被写体（グレーカードなど）を用意する必要はなく、すばやくプリセットマニュアルデータの取得ができます。

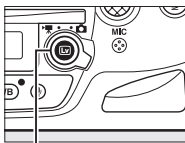
● スポットホワイトバランスでプリセットマニュアルデータを取得する

静止画ライブビューで、液晶モニターに表示されている被写体の一部分を選んでプリセットマニュアルデータを取得できます。

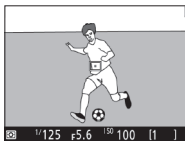
1

ボタンを押す

- ・ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、液晶モニターに被写体が表示されます。



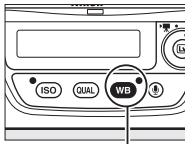
 ボタン



スポットホワイトバランスを使った詳細設定

2

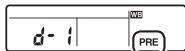
WB ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、背面表示パネルのホワイトバランス表示を **PRE** に合わせる



WB ボタン



メインコマンドダイヤル

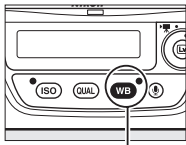


背面表示パネル

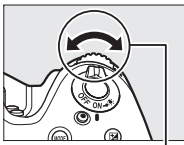
3

新規取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を選ぶ

- **WB** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して、これから取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を d-1 ~ d-6 の中から選びます。



WB ボタン



サブコマンドダイヤル

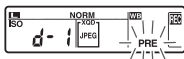


背面表示パネル

4

プリセットマニュアル取得モードにする

- いったん **WB** ボタンから指を放し、再度 **WB** ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになり、背面表示パネルに **PRE** が点滅します。



背面表示パネル

スポットホワイトバランスを使った詳細設定

5

PRE の点滅中に、マルチセクターを操作して、□を被写体の白またはグレーの部分に重ねる

- ㊟ ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、□で選んだ部分を細部まで確認できます。



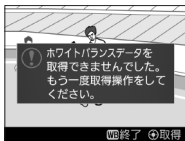
6

マルチセクターの中央ボタンを押すか、シャッターボタンを全押しして、プリセットマニュアルデータを取得する

- プリセットマニュアルデータの取得に成功したら ㊟ ボタンまたは **WB** ボタンを押してプリセットマニュアル取得モードを終了してください。

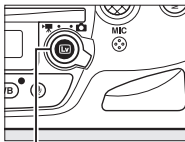


- データが取得できなかった場合は、液晶モニターに右の画面が表示され、手順5の状態に戻ります。意図に反したプリセットマニュアルデータが取得された場合も、手順5に戻り再び取得することができます。□の位置を変えるなどして、再度プリセットマニュアルデータを取得してください。

**7**

Lv ボタンを押す

- ファインダー撮影に戻ります。



Lv ボタン

ホワイトバランスを取得した部分を確認する

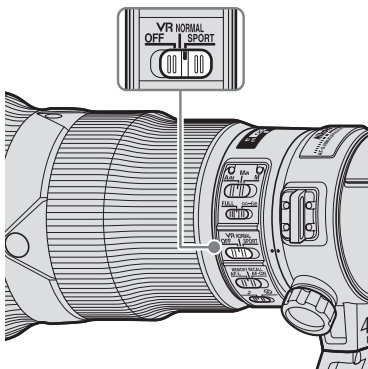
撮影メニューから「ホワイトバランス」の「プリセットマニュアル」を選ぶと、ライブビュー撮影時に取得したプリセットマニュアルデータには、ホワイトバランスを取得した部分に枠が表示されます。



**D4S で
AF-S NIKKOR
400mm f/2.8E FL
ED VR を使う**

SPORT モードで手ブレを補正する

AF-S NIKKOR 400mm f/2.8E FL ED VR の手ブレ補正機能には SPORT モードが搭載されています。サッカー競技の撮影する場合は、手ブレ補正スイッチを SPORT にセットすることをおすすめします。



● SPORT モードの特長

- ・動きの変化が激しい被写体を撮影するときに不要なブレのみを除去し、自然なファインダー像で撮影できます。
- ・一脚を使った撮影時に、より安定したファインダー像を実現しています。
- ・手持ち撮影でも、一脚を使っているかのような安定したファインダー像で撮影できます。
- ・通常撮影と流し撮りを繰り返すシーンで、自動的に最適な手ブレ補正を行います。
- ・ファインダー像が安定しているため、高速連続撮影時、特に流し撮り連続撮影時に被写体を捕捉しやすくなっています。
- ・連続撮影速度の低下やリリースタイムラグが生じません。

SPORT モードで撮影した場合

自然で安定したファインダー像を実現します。



NORMAL モードで撮影した場合

手ブレを強く補正するため、カメラまたはレンズを動かしたときにファインダー像が不自然になる場合があります。



● SPORT モードと NORMAL モードの使い分け

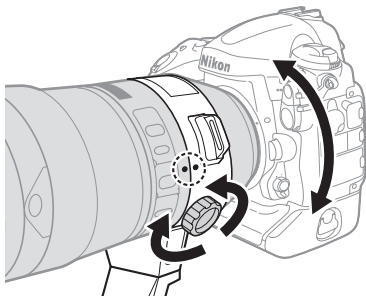
	SPORT	NORMAL
適している被写体	動体	静止体
動体撮影時のファインダー像	自然	不自然
連写時の違和感	ほとんどなし	あり
露光前センタリング	なし	あり

SPORT モードは、速いシャッター速度で撮影を行うサッカー競技やその他のスポーツシーンでファインダー像の安定性とバランスを実現した機能です。ファインダー像の安定性よりも、より高い手ブレ補正効果を重視する場合には **NORMAL** モードのご利用をおすすめします。

カメラの縦位置と横位置を スムーズに回転させる

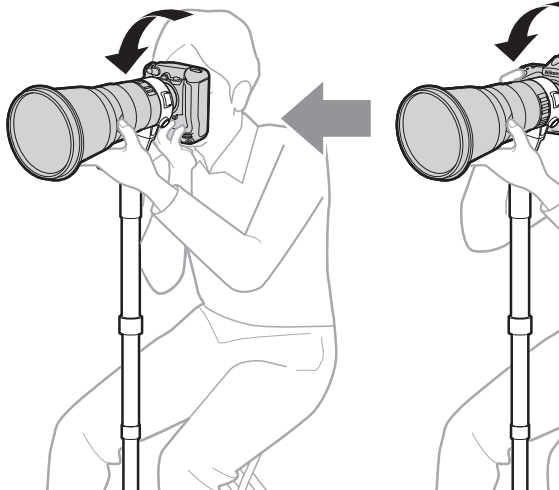
組み込み式回転一脚座を使ってカメラとレンズを一脚に取り付けると、カメラ位置（縦位置、または横位置）をスムーズに切り換えることができます。

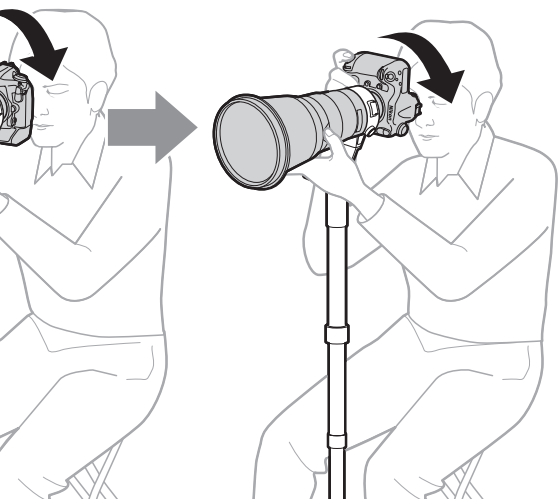
- 一脚は、カメラ側ではなくレンズ側の一脚座に取り付けてください。
- 一脚の形状によっては、カメラのグリップを握った状態でカメラを回転した際、一脚に手がぶつかることがありますのでご注意ください。



一脚座リング止めネジを少し緩め、カメラ位置（縦 / 横）を切り換えます。

カメラの縦位置と横位置をスムーズに回転させる





AF-S NIKKOR 400mm f/2.8E FL ED VR の質量について

AF-S NIKKOR 400mm f/2.8E FL ED VR は従来の 400mm レンズと比べて、軽量で持ちやすいレンズです。

AF-S NIKKOR 400mm f/2.8E FL ED VR	約 3800 g
AF-S NIKKOR 400mm f/2.8G ED VR	約 4620 g